

9月のアーティスト



みんな

高橋 玲那 ちゃん
認定こども園いとよ保育園 6歳



原っぱにテントを立ててお父さんとお母さん、妹たちと花火を見たの。ハート形の花火があったとてもきれいだったよ！

の広場

この人に聞く No.208 Spotlight

展勝地のアジサイを通して人の輪づくり

橋本 協子さん



展勝地公園のサクラ、ツツジが順に咲き終わると、並木に沿ってアジサイが咲きだします。昭和63年に女性市民の茶飲み話から誕生した、「あじさいの会」によって栽培管理されてきた花です。提案したのは、当時のからのメンバーで現会長の橋本協子さん（里分・81歳）。「水迎だから病気に強いアジサイがいい。しかも初夏に咲くから四季折々に展勝地が楽しめる」と、フラワー装飾技能士の知識を生かした発案でした。会の活動は、寄付による資金集めや庭から株分けしてもらうことからスタート。これまで植えた本数は、通算2000株にも上ります。ただ、

成長するまでに川の氾濫で流されたり間違っただけで約750株。それでも会員やボランティアの草刈り、清掃活動などによって、毎年きれいに花を咲かせてます。橋本さんは「会員は少人数に減ってしまったけれど、他の団体や企業、中学生の皆さんが参加してくれる」と感謝します。活動は河川環境の美化にもつながっています。35年の長きにわたる取り組みが評価され、今年7月には、河川愛護団体として二度目の感謝状が国から贈られました。秋になると、アンティークな色合いの「秋色アジサイ」に変化します。同会はこれを活用し、展勝地開園100周年事業でドライリースを作成して配布。秋色アジサイが欲しい人には花摘みをしてもらい、「私たちも作業が省けるし、持ち帰る人も喜ぶし、ゴミも出ないから良いことが二重三重よ」と、関わる人の輪が広がることを喜びます。珊瑚橋付近に会員が植えたスイセンの管理も、参加を呼びかけ一緒に作業。「多くの市民の皆さんに展勝地に関わってほしい」と願っています。

No.270

みんなの詩歌



宿題をつくつくぼうしにせかされるそんな急ぐなまだ夏休み
三年 佐藤 瞭太
怪談の幽霊よりも真っ白な宿題たちが何より怖い
三年 中浜 煌斗
夏祭り父の背中で見た花火音におびえたあの日の自分
二年 齋藤 莉琉
夕ご飯冷たいそうめん食べたいと言ったばかりに汗をかく母
一年 平野 颯

※掲載作品は日本現代詩歌文学館内に展示しています。
黒沢尻工業高校



熊谷 琴葉 ちゃん
令和4年3月3日生まれ
(藤沢)

パパとママのところに生まれてきてくれてありがとう。すくすくと元気に育ってね！



鈴木 采心 ちゃん
令和5年1月26日生まれ
(下江釣子)

いつも元気をくれてありがとう！これからも一緒に成長してこうね。大好きだよ！



高橋 大翔 くん
令和4年8月21日生まれ
(上江釣子)

大翔が生まれてパパママはとっても幸せだよ！これからも元気いっぱい大きくなってね！

おらほの愛ぞる



掲載申込みはこちら

どんなクラス？

面白い絵を描く人が多く、模写も上手(友翔)
仲良しで楽しい(柚月、純平、起夫、磨音)
協力し、助け合える(夢花、和央)
誰とでも元気にあいさつができる(愛佳)
個性豊かで面白い、ハイテンションでポジティブ！
(柚芭、夕奈、留衣、菜央、明かり、伊織)

担任 菅原先生からのメッセージ

15人の子どもたちはみんな仲良し。勉強も遊びも一緒に楽しんでいますね。6年生は最高学年として、頼もしい活躍をありがとう。5年生はサポートをありがとう。これからもよろしく！

9月のクラス 更木小学校 5・6年

